

世界は大きく変わりつつある

20世紀におきた世界の構造変化

20世紀の間に、世界の構造は大きく変化しました。

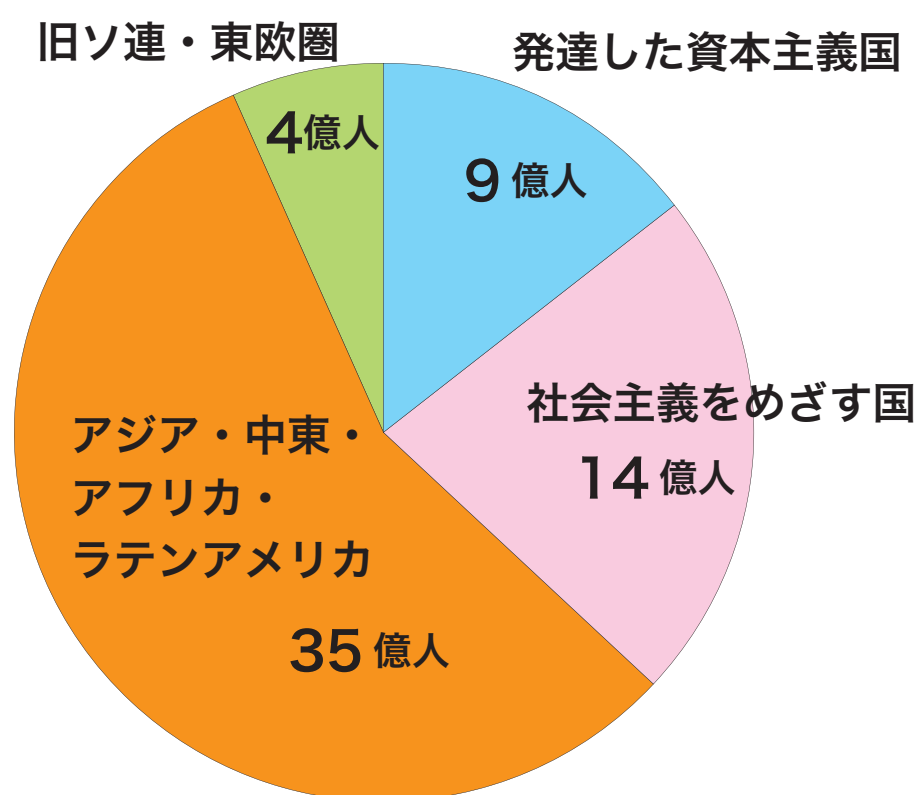
- 第2次世界大戦後、植民地体制の崩壊が進行。100を超える国々が独立を達成し、世界政治の上でも大きな役割をはたしています
- 国民主権の民主主義が政治の原則に
- 国連の設立とともに戦争の「違法化」、平和の国際秩序の建設が世界の目標に
- 資本主義が唯一の体制だった時代から、「2つの体制の共存」の時代へ

21世紀の世界の4つのグループ

世界の構造変化は、人口の分布から見るとよくわかります。

20世紀初頭には、「発達した資本主義」(帝国主義)の国々(人口5億5000万人)が、残りの人口11億人の地域を植民地・従属国の地位におき、地球全体を支配していました。

しかし、現在では、発達した資本主義の国々は、地球人口62億人のうち9億人、約7分の1を占めるだけになっています。代わりに人口の大部分を占めるのは、「アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ」のグループと、地理的にはこのグループに数え入れること



のできる「社会主義をめざす国々」。合わせると人口49億人、圧倒的な多数派になっています。この国々が、イラク戦争反対でも大きな力を発揮しました。